

平成 25 (2013) 年度

事業報告書

(平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで)

学校法人 武蔵野美術大学

# 目 次

---

## I. 学校法人の概要

1. 建学の精神・教育理念	.....	P 2
2. 法人及び設置学校の沿革	.....	P 2
3. 設置する学校・学部・学科等	.....	P 3
4. 学外施設	.....	P 3
5. 入学者数・収容定員・学生数・定員充足率	.....	P 4
6. 卒業・就職状況	.....	P 5
7. 学生納付金に関する情報	.....	P 6
8. 当該学校の所在地	.....	P 11
9. 役員及び教職員に関する情報	.....	P 12

---

## II. 事業の概要

1. 諸課題の進捗状況	.....	P13
2. グローバル人材育成推進事業にかかる取組及び各部等の取組	.....	P15

---

## III. 財務の概要

1. 経年比較	.....	P21
2. 主な財務比率比較	.....	P23

# I. 学校法人の概要

## 1. 建学の精神・教育理念

武蔵野美術大学は、1929年の創立当初から幅広い教養を備え、人格的にも優れた美術・デザインを中心とする造形各分野の専門家養成という教育理念をもち続けてきました。

それは、総合性と専門性の融合に深く留意し、「真に人間的自由に達するような美術教育」「教養を有する美術家養成」を掲げた建学の精神の堅持でもあります。

## 2. 法人及び設置学校の沿革

昭和 4(1929)年	帝国美術学校開校 (北多摩郡武蔵野町吉祥寺)
昭和 22(1947)年	造型美術学園と校名変更
昭和 23(1948)年	武蔵野美術学校と校名変更
昭和 32(1957)年	学校法人武蔵野美術学校認可 武蔵野美術短期大学設置
昭和 34(1959)年	短期大学通信教育部開設
昭和 36(1961)年	鷹の台校(現鷹の台キャンパス)開設
昭和 37(1962)年	学校法人武蔵野美術大学に改称 武蔵野美術大学設置、造形学部開設
昭和 44(1969)年	鷹の台キャンパスに全学統合 武蔵野美術学園開設
昭和 48(1973)年	大学院造形研究科(修士課程)を開設
昭和 63(1988)年	武蔵野美術短期大学を武蔵野美術大学短期大学部に名称変更
平成 14(2002)年	造形学部通信教育課程開設
平成 15(2003)年	武蔵野美術大学短期大学部廃止
平成 16(2004)年	大学院造形研究科に博士後期課程設置 新宿サテライト開設

### 3. 設置する学校・学部・学科等

理事長 天坊 昭彦

■武蔵野美術大学

学長 甲田 洋二

大学院	造形研究科	博士前期課程（修士課程）	美術専攻
			デザイン専攻
		博士後期課程	造形芸術専攻

造形学部	日本画学科	
	油絵学科	油絵専攻
		版画専攻
	彫刻学科	
	視覚伝達デザイン学科	
	工芸工業デザイン学科	
	空間演出デザイン学科	
	建築学科	
	基礎デザイン学科	
	映像学科	
	芸術文化学科	
デザイン情報学科		

造形学部 通信教育課程	油絵学科
	工芸工業デザイン学科
	芸術文化学科
	デザイン情報学科

■武蔵野美術学園

学園長 丸亀 敏邦

武蔵野美術学園	造形芸術科
	メディア表現科

### 4. 学外施設

- ・ gallery αM（東京都千代田区）
- ・ 武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジ（東京都港区）
- ・ 奈良寮（奈良県奈良市）
- ・ 清里山荘（山梨県北杜市）
- ・ 五箇山「無名舎」（富山県南砺市）
- ・ パリ国際芸術都市アトリエ（フランス）

## 5. 入学者数・収容定員・学生数 (2013年5月1日現在)

### ■武蔵野美術大学

#### 【大学院 造形研究科】

専攻	1年次生数	収容定員	学生数	収容定員充足率*
博士前期課程 美術専攻	61	56	123	2.19
博士前期課程 デザイン専攻	67	56	126	2.25
小計	128	112	249	2.22
博士後期課程 造形芸術専攻	4	18	12	0.66
大学院 総数	132	130	261	2.00

#### 【造形学部 通学課程】

学科	入学者数	収容定員	学生数	収容定員充足率*
日本画学科	41	160	163	1.01
油絵学科	148	584	622	1.06
彫刻学科	35	132	136	1.03
視覚伝達デザイン学科	106	422	443	1.04
工芸工業デザイン学科	137	556	583	1.04
空間演出デザイン学科	125	500	511	1.02
建築学科	84	330	334	1.01
基礎デザイン学科	76	302	313	1.03
映像学科	87	350	369	1.05
芸術文化学科	86	326	347	1.06
デザイン情報学科	104	400	423	1.05
小計	1,029	4,062	4,244	1.04

#### 【造形学部 通信教育課程】

学科	1年次生数	収容定員	学生数	収容定員充足率*
油絵学科	100	980	1,281	1.30
工芸工業デザイン学科	42	735	412	0.56
芸術文化学科	22	490	477	0.97
デザイン情報学科	51	735	579	0.78
小計	215	2,940	2,749	0.93
造形学部 合計	1,244	7,002	6,993	0.99

<b>武蔵野美術大学 総数</b>	1,393	7,132	7,254	1.01
-------------------	-------	-------	-------	------

\*収容定員充足率・・・学生数÷収容定員

## ■武蔵野美術学園

科	収容定員	学生数
造形芸術科	210	87
メディア表現科	190	30
合 計	400	117

## 6. 卒業・就職状況 (2014年5月1日現在)

### 【大学院 造形研究科】

専 攻	学位授与数	就職希望者数	進学者数	就職者数
博士前期課程 美術専攻	58	21	2	16
博士前期課程 デザイン専攻	54	29	2	24
小 計	112	50	4	40
博士後期課程 造形芸術専攻	3	0	0	0
大学院 総数	115	50	4	40

### 【造形学部 通学課程】

学 科	学位授与数	就職希望者数	進学者数	就職者数
日本画学科	42	19	9	16
油絵学科	147	62	38	51
彫刻学科	31	12	9	10
視覚伝達デザイン学科	111	88	8	80
工芸工業デザイン学科	136	80	14	73
空間演出デザイン学科	107	61	8	54
建築学科	74	36	17	29
基礎デザイン学科	77	42	7	34
映像学科	92	34	12	30
芸術文化学科	84	47	4	34
デザイン情報学科	103	76	4	66
小 計	1,004	557	130	477

### 【造形学部 通信教育課程】

学 科	学位授与数
油絵学科	116
工芸工業デザイン学科	25
芸術文化学科	31
デザイン情報学科	22
小 計	194

## 7. 学生納付金に関する情報 (2013 年度)

### 1. 学費などについて

#### 【大学院 造形研究科 博士後期課程】

	新入生	在学生
入学金	180,000	
授業料	1,185,000	1,185,000
実習費	-	-
維持費	30,000	30,000
施設費	300,000	300,000
合計	1,695,000	1,515,000

注)1 入学金については、通常の金額を記載。減免適用者については、別項「入学金減免について」を参照。

注)2 実習費は徴収しない。

#### 【大学院 造形研究科 修士課程】

	新入生	在学生
入学金	180,000	—
授業料	1,185,000	1,185,000
実習費		
日本画	33,000	33,000
油・版画	52,500	52,500
彫刻・映像・写真・デ情	65,500	65,500
視デ	39,500	39,500
工デ	57,500	57,500
造美・空デ・建築・基デ・芸文	29,500	29,500
維持費	30,000	30,000
施設費	300,000	300,000
合計		
日本画	1,728,000	1,548,000
油・版画	1,747,500	1,567,500
彫刻・映像・写真・デ情	1,760,500	1,580,500
視デ	1,734,500	1,554,500
工デ	1,752,500	1,572,500
造美・空デ・建築・基デ・芸文	1,724,500	1,544,500

注) 入学金については、通常の金額を記載。減免適用者については、別項「入学金減免について」を参照。

## 【造形学部】

### ①入学金及び授業料等

	新入生・編入生	在学生
入学金	360,000	—
授業料	1,185,000	1,185,000
実習費		
日本画	33,000	33,000
油・版画	52,500	52,500
彫刻・映像・デ情	65,500	65,500
視デ	39,500	39,500
工デ	57,500	57,500
空デ・建築・基デ・芸文	29,500	29,500
維持費	30,000	30,000
施設費	300,000	300,000
合計		
日本画	1,908,000	1,548,000
油・版画	1,927,500	1,567,500
彫刻・映像・デ情	1,940,500	1,580,500
視デ	1,914,500	1,554,500
工デ	1,932,500	1,572,500
空デ・建築・基デ・芸文	1,904,500	1,544,500

注) 入学金については、通常の金額を記載。減免適用者については、別項「入学金減免について」を参照。

### ②科目等履修生・委託学生・教職課程履修費等

#### (1) 科目等履修生(一般)

登録料	45,000
受講料	
講義	34,500
実技演習	69,000
実習費	3,500
選考料	10,000

注) 受講料・実習費は1単位当りの額。

#### (2) 科目等履修生(教職課程及び学芸員課程)

本学の卒業生で教員免許取得及び学芸員資格取得を目的とする科目等履修生

登録料	45,000
受講料	
講義	3,450
実技演習	6,900

実習費	3,500
教育実習費	10,000
介護等体験費	14,000
博物館実習費	21,000
選考料	10,000

注)1 受講料・実習費は1単位当りの額。

注)2 本学大学院に在籍している者は登録料を免除する。

### (3) 委託学生

登録料	45,000
受講料	
委託学生 A	
講義	34,500
実技演習	69,000
委託学生 B	
1年以内	592,500
6か月以内	296,250
実習費	
委託学生 A	3,500
委託学生 B	実費
選考料	10,000

委託学生 A… 授業科目の受講を目的とする者。

委託学生 B… 受入研究室及び担当教員の指導に基づき、本人の研究テーマについて修学することを目的とし、授業科目の受講を主たる目的としない者。

注)1 委託学生 A の受講料及び実習費は1単位当りの額。

注)2 委託学生 B の実習費は、実習費用が伴う場合、その都度実費を本人が負担する。

### (4) 学籍継続者(卒業延期者)

在籍料	65,000
受講料	
講義 (一般)	17,250
講義 (教職・学芸員)	5,500
実技演習	34,500
実習費	3,500

注)1 在籍料の算定は5,000円単位とし、その中間金額を超える場合は切上げを行う。

注)2 在籍料は前期(半期)のみの在籍の場合、半額の32,500円とする。

注)3 受講料・実習費は1単位当りの額。

## (5) 教職課程履修費及び学芸員資格取得に係る履修費

教職課程履修費(登録料)	24,500
学芸員履修費(登録料)	21,000

## 【造形学部 通信教育課程】

## (1) 入学金及び授業料

学科名	学 年	入学金	授業料	計
油絵学科	1 年次	30,000	285,000	315,000
	2 年次		285,000	285,000
	3 年次		285,000	285,000
	4 年次		285,000	285,000
工芸工業デザイン学科	1 年次	30,000	285,000	315,000
	2 年次		285,000	285,000
	3 年次		285,000	285,000
	4 年次		285,000	285,000
芸術文化学科	1 年次	30,000	285,000	315,000
	2 年次		285,000	285,000
	3 年次		285,000	285,000
	4 年次		285,000	285,000
デザイン情報学科	1 年次	30,000	285,000	315,000
	2 年次		285,000	285,000
	3 年次		285,000	285,000
	4 年次		285,000	285,000

注)1 編入学者に係る入学金は30,000円。

注)2 武蔵野美術大学(別科を含む)、武蔵野美術大学短期大学部(通信教育部を含む)、武蔵野美術短期大学(通信教育部を含む)、武蔵野美術学校、武蔵野美術学園等の卒業生及び中退者は、入学金(編入学金)を免除。武蔵野美術大学造形学部通学課程からの転籍者も入学金を免除。

## (2) 面接授業受講料

鷹の台校・吉祥寺校・新宿教室で開催	左記以外の地方会場で開催
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義科目は1単位につき8,000円</li> <li>・講義科目以外の授業科目は1単位につき13,000円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義科目は1単位につき10,000円</li> <li>・講義科目以外の授業科目は1単位につき16,000円</li> </ul>

## (3) 教職課程履修費

① 教育職員免許法第5条第1項別表第1による場合	114,000
② 教育職員免許法第6条第2項別表第3及び別表第8による場合	57,000
③ 教育職員免許法第6条第3項別表第4による場合	57,000

(4) 学芸員課程履修費

69,000 円

(5) 科目等履修生

① 科目等履修生(一般)

登録料	40,000
受講料 (1 単位当りの額)	
講義科目	12,000
講義科目以外	18,000
考查料	10,000

② 科目等履修生(教職生) 教育職員免許法第 6 条別表第 3 及び別表第 8 による場合

登録料	40,000
受講料 (1 単位当りの額)	
講義科目	8,400
講義科目以外	12,600
考查料	10,000

③ 科目等履修生(教職生) 教育職員免許法第 6 条別表第 4 による場合

登録料	40,000
受講料	319,000
考查料	10,000

④ 科目等履修生(特修生)

登録料	40,000
受講料 (1 単位当りの額)	
講義科目	12,000
講義科目以外	18,000
考查料	10,000

**【武蔵野美術学園】**

登録料	施設費	授業料	実習費	維持費	保険料	合計
90,000	52,500	360,000	52,500	30,000	900	58,5900

## 2. 入学金減免について

### 【大学院 造形研究科 博士後期課程】

減免適用者	入学金
本学造形学部卒業後他大学大学院修士修了見込者	半額
本学造形学部卒業後他大学大学院修士修了者	半額
本学大学院修士修了見込者	徴収しない
本学大学院修士修了者	徴収しない

注)1 本学短期大学卒業者の中には、専攻科修了後学位授与機構において学士の学位を得た者を含む。

注)2 短期大学部及び造形学部には、通信教育課程を含む。

### 【大学院 造形研究科 修士課程】

減免適用者	入学金
本学造形学部卒業生	半額
本学造形学部卒業見込者	半額
本学大学院修了者	半額
本学大学院修了見込者	半額

### 【造形学部】

入学区分	減免適用者	入学金
1年次入学	本学短期大学卒業生	半額
	本学造形学部卒業生	半額
	本学造形学部卒業見込者	半額
3年次編入学	本学短期大学卒業生	半額
	本学造形学部卒業生	半額
	本学造形学部卒業見込者	半額
転籍	本学通信教育課程からの転籍者	半額

注) 転科・転専攻は、在学生の本学造形学部内での学籍異動なので、入学金は徴収しない。

## 8. 当該学校の所在地

### 鷹の台キャンパス

法人本部、武蔵野美術大学造形学部（通学課程）、大学院  
〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736

### 吉祥寺校

武蔵野美術大学造形学部通信教育課程、武蔵野美術学園  
〒180-8566 東京都武蔵野市吉祥寺東町 3-3-7

### 新宿サテライト（新宿教室）

〒163-0609 東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル 9階

## 9. 役員及び教職員に関する情報

### ①役員に関する情報 (2013年5月1日現在)

■法人役員(理事9名、監事2名)	■評議員	24名
理事長	天坊昭彦	
学長・理事	甲田洋二	
理事	稲葉直	
理事	大坪圭輔	
理事	木村修三	
理事	鈴木久雄	
理事	松家克	
理事	宮崎晋	
理事	向山卓二	
監事	小川昭夫	
監事	幸島祥夫	

### ②教職員に関する情報 (2013年5月1日現在)

■教職員数	
専任教員	136名
・職位内訳	教授123名、准教授9名、専任講師4名
・年齢内訳	30代6名、40代25名、50代55名、60代48名、70代2名
武蔵野美術学園教員	2名
客員教授	26名
助手	53名
非常勤講師	678名(大学667名、学園11名)
教務補助員	62名
武蔵野美術学園副手	4名
事務系職員	195名(専任80名、嘱託62名、長期臨時53名)

## II. 事業の概要

学校法人武蔵野美術大学は、2013（平成 25）年度事業計画において、中長期計画の策定を喫緊の課題とし、8 項目にわたる中期的課題、10 項目の平成 25 年度重点課題を設定した。

### 【中期的課題】

- ① キャンパス整備計画
- ② 財政計画
- ③ 大学院の充実
- ④ デザイン領域における教育研究の将来構想についての検討
- ⑤ 「武蔵野美術大学グローバル人材育成プログラム」の推進
- ⑥ 通信教育課程の改革
- ⑦ 大学基準協会による認証評価に向けた計画
- ⑧ 武蔵野美術学園のあり方についての検討

### 【平成 25 年度重点課題】

- ① 小平 3・3・3 号線敷設に対応する北側校地グラウンド等移設工事及び A 棟（仮称デザイン 工房棟）新築工事の実施
- ② 教育研究環境整備に向けた各種工事等の実施
- ③ 学生支援の充実
- ④ 外部・競争的研究資金等獲得の促進
- ⑤ 武蔵野美術大学グローバル人材育成プログラムの推進
- ⑥ 新カリキュラムの実施
- ⑦ 通信教育課程スクーリング等授業システムの改善
- ⑧ 美術教育の振興
- ⑨ 大学間連携、地域連携の拡充・推進
- ⑩ 広報活動の強化

## 1 諸課題の進捗状況

### (1) 中長期計画の策定

本法人は、3 月 26 日開催の理事会において第一次中長期計画を策定した。第一次中長期計画は平成 26 年度を起点とし、平成 33 年度までの 8 年間にわたる計画であり、平成 26 年度から平成 29 年度までの 4 年間で第 1 期、平成 30 年度から平成 33 年度までを第 2 期と位置づけ、18 歳人口が安定期を経て第 2 期初年度より再び減少し始め、最終年度となる平成 33 年度からは加速度的な減少が見込まれる中、第一期の間にビジョン実現の基礎を確立することを目指す。また、本中長期計画は、法人を取り巻く諸状況の変化や事業構想の進捗状況により逐次修正するとともに、第一期末（平成 29 年度末）にはその間の評価・総括のもと、第二期の計画見直しを図ることとする。

## (2) デザイン領域における教育研究の将来構想についての検討

平成 25 年 2 月デザイン領域将来構想委員会より提出された最終答申を受け、平成 25 年 9 月に学長よりデザイン領域将来構想実施案が提示された。各方面からの意見聴取の後、平成 26 年 1 月にはデザイン領域再編実行委員会を設置し、再編新学科の 3 つのポリシー、教員配置、学生定員等具体的事項案の策定に向け検討を開始した。

## (3) 大学院の充実

上記(2)のデザイン領域将来構想実施案において、大学院将来構想実施については第 2 期の課題と位置づけること、また通信教育課程大学院開設についても議論を進めることが示された。

## (4) 武蔵野美術大学グローバル人材育成プログラムの推進

平成 25 年度及び 28 年度（補助最終年度）の各種数値目標達成に向け、同プログラムを推進した。

\* 「3. グローバル人材育成推進事業にかかる取組及び各部等の取組」において詳細説明。

## (5) 新カリキュラムの実施等

平成 24 年度当初に学長より提示された「新カリキュラム指針」に沿って、カリキュラム委員会を中心に検討を重ね、平成 25 年度から新カリキュラムを導入した。新カリキュラムは旧カリキュラムの構造を継承しつつ、① 学科ごとの初年次・専門基礎教育のための学科別科目（2 単位）を設置し、学科別科目の充実を図った、② 学科・教育単位を横断する造形総合Ⅱ類科目を新たに開設するとともに教育単位オープン型の造形総合Ⅱ類科目も充実させ、1 科目（2 単位）を選択必修とした。

また、「グローバル人材育成推進事業」に係る取組として、国際交流プロジェクトの単位化、英語による学科別科目・造形総合Ⅱ類科目の増設を行った。

## (6) 通信教育課程スクーリング等授業システムの改善

平成 25 年度より吉祥寺校での夏期スクーリングを実施、科目試験東京会場を本学鷹の台校からお茶の水女子大学（文京区大塚）に変更した。また、学生の学習計画の適切化と受講生の利便性を考慮した平成 26 年度スクーリング日程を決定した。

## (7) 学生支援の充実

東日本大震災による甚大な影響に鑑み、被災した平成 25 年度入学生や現在も家計の回復が見込めず、修学を継続することが困難な在学生に対し、平成 24 年度に引き続き特別措置として学費等の減免を実施した。自宅外通学者への家賃補助制度についても継続実施し、経済的支援の促進を図った。

また、学生生活支援、国際交流推進の観点から、平成 26 年 4 月より本学専用の学生寮（協定交換留学生及び一般女子学生対象）の開設を決定した。

## (8) 美術教育の振興

女子美術大学、多摩美術大学、東京芸術大学、東京造形大学、日本大学芸術学部及び武蔵野美術大学は、美術文化の発展とその教育普及を目的として、平成 25 年 9 月美術系大学連絡協議会を発足することを確認し、平成 25 年 12 月覚書を交わした。

また、デザイン・ラウンジにおいて公開講座、キッズワークショップを開催した。

## (9) 外部・競争的研究資金等獲得の促進

科学研究費補助金について、2013（平成 25）年度は学内での新規申請 14 件、うち採択 4 件となった。平成 26 年度の更なる科研費申請・採択に向けて、教授会での説明、スタッフの研修参加、そして本学独自でパンフレット「科研費基礎ガイド」作成をおこなった。

また、造形研究センターにかかる「近現代建築資料のデジタルアーカイブ化と、その利活用の手法研究」及び「生活デザインのデジタルアーカイブ化と、その生活文化空間の総合的研究への応用」が平成 25 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択された。なお、本学の 2013（平成 25）年度国庫補助金は私立大学経常費補助金一般補助・特別補助合計 7 億 50 百万円（昨年度比 5 千 2 百万円減）で、研究設備整備費等補助金、施設整備費補助金、国際化拠点整備事業費補助金を含めると 9 億 32 百万円（昨年度比 4 千 9 百万円増）となった。

## (10) 広報活動の強化

「美大志望者の裾野を広げるー潜在的需要の掘り起こし」をテーマに様々な活動を展開した。高校内ガイダンスや模擬授業、予備校・研究所における大学説明会等により積極的に参加した（238 回、前年度比 18 回増）。資料請求者管理システムと入試システムの連動による情報の一元化を図るべく、資料請求者のイベント来訪歴、出願歴、可否等追跡調査を開始、合格者アンケートを実施した。また、「進学相談会東京会場」を「真夏のオープンキャンパス-musabiNAVI-」に名称を変更し、模擬授業を中心としたオープンキャンパスとして実施した（参加者数 4,520 名、前年度進学相談会比 3,450 名増）。外国人留学生の志願増を目途に北京で進学相談会を実施、台湾のフェアに資料参加した。

## (11) 建築計画の推進及び教育研究環境整備に向けた各種工事等の実施

北側校地グラウンド等移設工事及び A 棟（仮称デザイン工房棟）新築工事について、平成 26 年 1 月に着工、テニスコート及びグラウンド等移設工事を進めた。

また、教育研究環境整備に向けた各種工事等として、12 号館地下収蔵庫のデザインアーカイブ室転用改修工事、既存校舎（5C 号館、ホール C）の外壁補修・屋上防水・塗装補修などの修繕工事、12 号館エレベーター耐震改修工事等を実施、講義室（第 1、2 講義室）の AV 機材、LL 教室の機器を更新した。

# 2 グローバル人材育成推進事業にかかる取組及び各部等の取組

## (1) グローバル人材育成推進事業にかかる取組

- ① 事業推進のための海外協力機関の拡大を目指し、協定締結候補校をリストアップ、交渉を行い、新たに国立台湾芸術大学(台湾)、中央美術学院(中国)、ラサール・カレッジ・オブ・アート(シンガポール)、香港理工大学設計学院(香港)、ロイヤルメルボルン工科大学(オーストラリア)、清華大学美術学院(中国)の 6 校と協定を締結した。また過去に交流実績のある海外高等教育機関との関係維持のため、関係強化校 (Friendship Institute) として 17 校から同意を得た。
- ② 学生の外国短期留学等を奨励するため、留学等にかかる経費の一部を補助し、経済的支援を図ることを目的とする「武蔵野美術大学外国短期留学等経費補助規則」（平成 26 年 4 月 1 日施行）を制定した。
- ③ 国際シンポジウム「デザイン教育を考えるーコンテンツからコンテクストへー」及び国際会議「グローバル・デザイン教育フォーラム 2014ーグローバル・デザイン教育ファカルティの創設に向けてー」

を開催した。

- ④ 英語による学科別専門科目を増設し、前年の6科目から19科目（前期・後期）とした。
- ⑤ インタラクシオン交流ルーム（iRoom）を活用し、グローバルコンテンツのアーカイブを作成するとともに双方向授業を実施した。
- ⑥ 英語履修者に対しプレースメントテストを実施した。また言語文化研究室に学習アドバイザーを配置し、TOEFL受験者等からの学習相談を行った。
- ⑦ TOEFLiBT 特別選抜クラスを課外授業として設置、通年で行った他、春季においても集中講座を開設、また TOEFL iTP、TOEIC IP テストの学内受験機会を年1回から2回に増設、TOEFL iTP には43名の受験があった。
- ⑧ 海外インターンシップ（バンコク）を実施、学生2名が参加した。
- ⑨ 学生のグローバル志向を高めるための各種施策として、卒業生など海外留学経験者の生のアドバイスを聞くランチトークを12回開催し、のべ153名が参加した。また「自らの言葉で自身の作品を海外に向け発信」するのに必要な英語力とスキルを身に付けることを目的とし、美術・デザインに関するプレゼンテーション能力の向上を目指す英語講習会を3回（14日間）開催、77名の参加があった。
- ⑩ 美大生のグローバル能力を適切に測定するツールを業者共同で開発、客観的評価と主観的評価の両面から分析を加え策定した。
- ⑪ 9名の専任教員に対しFD語学研修を実施し、グローバル人材育成事業対応職員を1名国際センター事務室に配置した。また10月に行った全学研修会においては、「国際交流の今までとこれから」をテーマに、グローバル人材育成に関する本学の歴史から将来の方向付けまで幅広い内容が議論された。
- ⑫ 本事業における各種情報発信の核となる特設WEBサイトの更新を継続実施、情報の可視化を行った。また各種イベントにおいて外国人受験生等を対象に多言語によるパンフレットを配布した。
- ⑬ 校友会との連携によりアラムナイ・グローバル・サポーター制度を発足、10名の卒業生より支援の登録があった。
- ⑭ 平成26年度に語学海外短期集中講座を開設することを決定した。

## (2)各部等の取組

### <企画部>

- ① 平成27年度大学基準協会認証評価に向けて第5期自己点検・評価委員会のもとに8つのワーキンググループを設置、自己点検・評価活動を実施し、平成26年1月に理事長・学長に報告書を提出した。
- ② 校友会との共催にて、7月に地域フォーラムアート&デザイン2013東京「僕の鉛筆はどこへいった～リアリティを失ったクリエイション時代～」を開催した。
- ③ 平成25年度自校史教育検討ワーキングチーム主催企画展「自校史を知ろう！『創立記念祭から芸術祭りへ』写真で見る昔の芸祭」（2013年10月26日～28日、於：田中誠治記念室）、「第5回自校史を知ろう！『ムサビを支えた人々』帝国美術学校の創立期から同盟休校と帝国美術学校の分裂まで」（2014年3月19日、於：田中誠治記念室）の開催協力を行った。
- ④ 美術系大学6大学（女子美術大学、多摩美術大学、東京藝術大学、東京造形大学、日本大学芸術学部、武蔵野美術大学）による美術系大学連絡協議会が発足し、12月に締結式を開催した。
- ⑤ 6月に東京工業大学と教育研究交流に関する連携協定を締結し、7月に両校の学生を交え合同ワークショップを行った。
- ⑥ 産官学受託研究19件を実施した（1,926万円）。

- ⑦ αMプロジェクトについて、千代田区東神田の gallery αMにおいて「楽園創造」を年間7回の企画展として開催した。文化庁「平成25年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」に申請・採択され、委託事業の指定を受けた。（補助金653万円）
- ⑧ 武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジにて武蔵野美術大学公開講座「トップデザインセミナー」（全5回）を開催した。また、8月には「東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズウィーク2013」に参加し、本学企画としてワークショップを全6回実施した。
- ⑨ 11月東京ミッドタウンで開催された「GOOD DESIGN EXHIBITION 2013」期間中に、武蔵野美術大学 デザイン・ラウンジにて「グッドなデザイン・ラウンジ」を開催した（展示及び全6回のワークショップ）。

#### <総務部>

- ① セクシュアルハラスメント規則をすべてのハラスメントを対象とするハラスメント規則に改正した。
- ② 平成26年2月に事務系職員（専任）へのハラスメント研修を実施した。
- ③ 消費税新税率の適用（平成26年4月1日）に向けて、システム対応、経過措置等の移行準備を進めた。
- ④ 学校法人会計基準改正（平成27年4月施行）に向けて、改正内容の周知等の準備を開始した。
- ⑤ 平成24年度に移行した最新版会計システム（TOMAS-PS/EX2）の効率的な運用を進め、各部課室の予算管理の徹底を促した。
- ⑥ 北校地整備工事の施工業者を決定し、着工した。
- ⑦ 12号館地下2階の収蔵庫をデザインアーカイブ室へ改修した。
- ⑧ 12号館1階のビデオアトリエの照明装置設備を更新した。
- ⑨ 学内LANの基幹ネットワークを更新した。

#### <教務部>

- ① 学生証のデザインを一新すると同時に、グローバル化に対応するべく、英語併記にした。
- ② 英語の授業を強化するべく、CALL教室の全面改修工事を行った。
- ③ 昨年度に引き続き、主要な講義室7教室について、デジタル化に対応するべく設備の改修工事を行った。
- ④ 造形学部の成績評価基準を平成26年度から5段階評価にするにあたり、教務事務システムの改修を行った。
- ⑤ 昨年度に引き続き、東日本大震災を含む災害救助法が適用された災害について、学費減免等の支援を行った。
- ⑥ 平成24年度私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費）の交付決定を受けて、映像学科12号館1階スタジオ照明設備「スタジオライティング・トレーニングシステム」の更新を行った。
- ⑦ 専任教員の研究支援体制の充実を図るため、出版助成対象を見直し、「武蔵野美術大学出版助成規則」として規則化、制定した。
- ⑧ 共用演習室におけるデザイン演習イス取替更新（3年計画・最終年度）し、計画を完了した。
- ⑨ 「国際交流の今までとこれから」をテーマに全学研修会を行った。
- ⑩ 前期研究集会（テーマ「芸術と法」）、後期研究集会（2件。テーマ「第三惑星の旅」、「キャンパス誕生半世紀～芦原義信モダニズムの夢」）を実施した。

- ⑪ 第 37 回東京五美術大学連合卒業・修了制作展を国立新美術館にて開催した。
- ⑫ ホームページで公開している専任教員プロフィール集に英文の紹介文を追加した。

### <学生部>

- ① 聴覚障害をもつ学生に対するノートテイク支援を教務課と連携、実施した。
- ② 鷹の台ホール B 棟・C 棟補改修工事、窯工部スペースの鷹の台ホール C 棟 1 階への移設など課外活動スペースの充実を図った。
- ③ 本学専用学生寮の平成 26 年度開設を決定し、運用開始の準備を進めた。
- ④ 台風上陸が危ぶまれる状況下、参加学生・来場者の安全確保に努めるなか、平成 25 年度芸術祭が無事開催され、過去最大の約 3 万 7 千人の来場となった。
- ⑤ 3 年次の 5 月のスタートアップガイダンスから 9 月の学科別ガイダンスに至るまで、就職活動意識の高まりが進むよう段階に応じて就職ガイダンスを実施した。
- ⑥ ハンディータイプで持ち運べる冊子「就職ガイドブック」等を学部 3 年生、修士 1 年生らに配布した。
- ⑦ 進路インフォメーション誌（年 2 回）を発行し、ポートフォリオ説明会や内定者の作品などを紹介し、就職活動の一助とした。
- ⑧ 自己分析講座、グループディスカッション講座、就職支援サイトセミナー等各種就職セミナー等を実施した。
- ⑨ OB、OG を中心に年間 100 社を超える学内会社説明会を実施した。入試時期には新宿サテライトキャンパスを効果的に利用した。また 12 号館 8 階及び新宿サテライトでの合同会社説明会を年間を通じて 3 年生、4 年生向けに開催した。
- ⑩ キャリア教育基礎を前期と後期に開講、進路指導専門委員会により適切な基礎教育を実施した。
- ⑪ 冊子「武蔵人（むさびと）」を発行、就職開拓ツールとして求人票送付の際に同封し本学への理解を深めた。
- ⑫ タイ・バンコクの広告代理店 SPIN WORK 社において初めての学生 2 名による海外インターンシップを実施した。さらに次年度に向けてインターンシップ仲介機関の選定を行った。
- ⑬ 今年度より新たに作家支援プログラムを立ち上げ、作家活動を志す学生に向けて現役作家等による講演会を年間 6 回開催した。

### <通信教育課程>

- ① 入学生の増加及び在学生の学修継続を目途に様々な改革を進めるべく、学習環境の整備を目的とした教務部会と入学者の増加を目的とした広報部会を立ち上げ、検討を進めた。
- ② 平成 26 年度改革の一環として、スクーリング日程改編に向け、事務・研究室体制を試験的に導入し、その反省や改善を検討した。
- ③ 教員人件費の総合的な見直しを目的に添削出校の現状を調査した。
- ④ 共同研究を通じて通信教育のメディア授業化を研究した。
- ⑤ デザインシステムコースの安定化、活性化を図るべく、科目担当講師の改編、教科内容などの改善を全面的に進めた。
- ⑥ 広報活動について、ウェブサイトの刷新、広告表現の先鋭化、ピンポイントの DM・チラシの送付、入学相談会での全体説明・体験授業・講演会など様々な活動を展開した。

### <美術館・図書館、造形研究センター>

- ① 美術館・図書館の学生利用、授業利用の促進。美術館では年間 11 本の展覧会を開催し延べ 69,998 人の入場者を、図書館では 168,340 人の利用実績があった。
- ② 各部門所蔵データベースの充実と統合検索システムの利用促進。第 1 期造形研究センターの最大の成果である統合検索システムを公開し、学内外からのアクセスを可能とした。
- ③ 美術館で開催される展覧会の鑑賞ツアーを本学学生が担う教育普及プログラムをはじめ、複数のプログラムを開催し、教育普及プログラムの活性化を図った。
- ④ 広報及び発信コンテンツの充実を図った。テレビ・ラジオ 7 件、新聞 27 件をはじめ、当館の活動が年間 163 件、メディアに掲載された。また 25 年度より公式 Twitter による情報発信を開始した。
- ⑤ 造形研究センター第 2 期として、4 つの研究プロジェクトが各研究テーマにそって活動を開始した。
- ⑥ 「日本近世における文字印刷文化の総合研究」をテーマに、平成 26 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業について文部科学省へ構想調書を提出した。

### <国際センター>

- ① 海外からの訪問教授や研究員の招聘、パリ賞、海外協定校との交流、学生交換、海外教育情報の調査・提供、留学相談、海外広報等の推進を実施した。
- ② 海外大学等との共同プロジェクトや教員交流、相互ワークショップ等を実施した。
- ③ 80 周年記念事業の海外留学研究奨励奨学金募集を実施した。
- ④ ポール・スミス奨学金奨学生の選出と送り出しを実施した。
- ⑤ 私費留学生への学生生活の効果的支援及び奨学金（授業料減免を含む）業務を実施した。
- ⑥ 海外からの受験生増加のための施策として、「平成 25 年度日本留学フェア（北京会場）」に広報入学センターと共に参加した。
- ⑦ 海外高等教育機関との交流を目的に実施する国際交流プロジェクトを 10 件採択、実施し、学生 67 名が参加した。
- ⑧ 学生の国際交流企画採択件数を 6 件募集し 1 件採択した。

### <広報入学センター>

- ① 入試科目と出題のあり方について検討を進め、入試委員会内にデザイン系デッサン出題検討ワーキンググループを設置し検討を開始した。
- ② 国際センター及び国内日本語学校との連携により、11 月北京で協定校 2 校を訪問、5 月、7 月、10 月に日本語学校で説明会、作品講評会を実施した。
- ③ 多様な入試のあり方について検討し、公募制推薦入試に英語力重視型を導入した。
- ④ WEB サイトにおける受験生向けアプリの開発や情報の階層整理、受験生向けサイト制作（スマホ対応）、印刷物については大学案内の無料配付、保護者・教員向けの冊子作成など広報ツールの見直しを図った。
- ⑤ 「旅するムサビ」など学外活動への支援強化と美術普及活動に関する情報発信を進めた。

### <武蔵野美術学園>

- ① 学生募集活動に注力し、週 2 日制を含む在籍者数は平成 25 年度 10 月次在籍生数 183 名に対し平成 26 年 4 月次生数 189 名の予定となった（別途トライアル受講生 38 名）。

- ② オープンセミナーの開講数を前年度より 6 講座増の計 118 講座開講、子ども講座を拡充し、春・夏・秋に合計 28 講座開講した。また、デッサン・版画体験講座を実施し、20 名近くが参加した。
- ③ 3 年目となる The SIZE SIX 展を開催し、出品料とオークション売上を武蔵野市を通じて東日本大震災義援金として寄付した。出品作品は、学園生、一般市民を含め 175 点となった。
- ④ 東京都西部公園緑地事務所を中心とした井の頭恩賜公園 100 年実行委員会の要請により「井の頭 100 祭」に協力し、同祭に武蔵野美術学園学生ブースを設置、アート作品販売等により市民との交流を行った。
- ⑤ 武蔵野市主催「むさしの環境フェスタ」にブースを設け、展示等に協力した。また、武蔵野市の依頼に協力し、下水道局工事現場 2 ヶ所の防音壁に学園教員・副手及び学生の絵画作品（プリント）を展示した。
- ⑥ メディア表現科の学外展示（於：三鷹市・しろがねギャラリー）を開催した。また、武蔵野市立千川小学校の卒業式・入学式に合わせ、学園生の作品を展示した。
- ⑦ 新宿サテライトにおいて、修了制作選抜展に合わせて武蔵野美術大学客員教授中島信也氏の講演会を開催した。

以 上

### Ⅲ. 財務の概要

#### 1. 経年比較

##### (1) 貸借対照表

(単位:千円)

科 目	平成21年度末	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末	本年度末
固定資産	37,412,544	38,433,910	38,541,360	41,406,404	42,960,822
流動資産	8,448,162	7,760,294	8,626,048	8,264,359	6,903,735
資産の部合計	45,860,706	46,194,204	47,167,408	49,670,764	49,864,557
固定負債	1,792,368	1,781,796	1,746,767	1,633,797	1,703,255
流動負債	2,608,621	2,595,585	2,781,217	4,170,952	3,807,542
負債の部合計	4,400,989	4,377,381	4,527,984	5,804,749	5,510,796
基本金の部合計	40,353,424	41,330,381	41,767,439	41,476,693	42,944,389
消費収支差額の部合計	1,106,293	486,442	871,985	2,389,322	1,409,372
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	45,860,706	46,194,204	47,167,408	49,670,764	49,864,557

##### (2) 収支計算書

##### ① 資金収支計算書

(単位:千円)

科 目	平成21年度末	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末	本年度末	
収入の部	学生生徒等納付金収入	8,415,562	8,421,425	8,355,437	8,312,633	8,165,171
	手数料収入	262,129	252,414	228,356	216,170	195,443
	寄付金収入	100,758	82,173	52,510	78,822	50,538
	補助金収入	1,196,086	889,305	977,115	883,281	932,250
	資産運用収入	64,548	42,110	24,613	33,781	60,002
	資産売却収入	0	0	0	824,339	
	事業収入	34,417	47,003	90,806	80,161	77,127
	雑収入	275,706	157,519	231,131	233,674	182,397
	借入金等収入	0	0	0	0	
	前受金収入	1,975,520	1,994,292	1,956,262	3,093,498	1,969,067
	その他の収入	1,552,561	793,856	547,320	470,980	384,488
	資金収入調整勘定	△ 2,631,636	△ 2,267,232	△ 2,199,070	△ 2,238,575	△ 2,202,321
	前年度繰越支払資金	7,101,911	7,470,978	7,194,759	8,150,509	7,741,087
	収入の部合計	18,347,562	17,883,843	17,459,241	20,139,274	17,555,249
支出の部	人件費支出	4,902,031	4,728,373	4,773,935	4,790,932	4,657,096
	教育研究経費支出	2,348,922	2,868,412	2,418,269	2,654,430	2,533,822
	管理経費支出	876,966	872,086	815,950	831,170	788,619
	借入金等利息支出	0	0	0	0	
	借入金等返済支出	0	0	0	0	
	施設関係支出	1,773,489	1,580,638	566,874	319,983	1,457,131
	設備関係支出	693,302	552,167	284,088	248,904	288,210
	資産運用支出	324,296	73,104	651,786	3,791,729	1,127,344
	その他の支出	522,203	562,470	557,773	750,318	987,295
	資金支出調整勘定	△ 564,625	△ 548,166	△ 759,944	△ 989,280	△ 601,529
	次年度繰越支払資金	7,470,978	7,194,759	8,150,509	7,741,087	6,317,261
支出の部合計	18,347,562	17,883,843	17,459,241	20,139,274	17,555,249	

②消費収支計算書

(単位:千円)

科 目		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	本年度
消費 収入 の 部	学生生徒等納付金	8,415,562	8,421,425	8,355,437	8,312,633	8,165,171
	手数料	262,129	252,414	228,356	216,170	195,443
	寄付金	125,156	84,469	55,003	86,143	62,855
	補助金	1,196,086	889,305	977,115	883,281	932,250
	資産運用収入	64,548	42,110	24,613	33,781	60,002
	資産売却差額	0	0	0	722,694	
	事業収入	34,417	47,003	90,806	80,161	77,127
	雑収入	275,706	157,519	231,131	233,674	182,397
	帰属収入合計	10,373,604	9,894,245	9,962,462	10,568,537	9,675,246
	基本金組入額合計	△ 831,522	△ 976,957	△ 437,058	△ 111,533	△ 1,467,696
	消費収入の部合計	9,542,082	8,917,288	9,525,404	10,457,004	8,207,550
	消費 支出 の 部	人件費	4,880,694	4,699,560	4,769,541	4,686,670
教育研究経費		3,171,973	3,832,588	3,434,524	3,706,650	3,525,324
管理経費		972,525	978,023	929,642	948,417	899,468
借入金等利息		0	0	0	0	
資産処分差額		3,465	26,968	6,154	211	37,342
徴収不能引当金繰入額		0	0	0	0	
消費支出の部合計		9,028,657	9,537,139	9,139,861	9,341,946	9,187,500
当年度消費収支差額	513,425	△ 619,851	385,543	1,115,058	△ 979,950	
前年度繰越消費収支差額	592,868	1,106,293	486,442	871,985	2,389,322	
基本金取崩額	0	0	0	402,279		
翌年度繰越消費収支差額	1,106,293	486,442	871,985	2,389,322	1,409,372	

## 2. 主な財務比率比較

消費収支計算書及び貸借対照表から、本学の過去5年間の財務比率を計算し下表に示した。なお、「評価」欄は日本私立学校振興・共済事業団による評価を、「芸術系学部平均」欄は芸術系20法人の平成24年度の平均値を表したものである。(いずれも日本私立学校振興・共済事業団編『今日の私学財政』平成25年度版による)

消費収支計算書関係財務比率

比率	算式(×100)	評価	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	本年度	(単位:%)
								芸術系 学部平均
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	↗	13.0	3.6	8.3	11.6	5.0	2.4
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	—	81.1	85.1	83.9	78.7	84.4	74.6
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	↗	1.2	0.9	0.6	0.8	0.6	0.7
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	↗	11.5	9.0	9.8	8.4	9.6	9.7
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	↘	47.0	47.5	47.9	44.3	48.8	54.7
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	↗	30.6	38.7	34.5	35.1	36.4	30.4
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	↘	9.4	9.9	9.3	9.0	9.3	9.6
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	↘	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	↗	8.0	9.9	4.4	1.1	15.2	7.0
減価償却費比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{消費支出}}$	—	10.2	11.0	12.5	12.3	12.1	12.4
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	↘	58.0	55.8	57.1	56.4	57.9	73.2
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	↘	94.6	107.0	96.0	89.3	111.9	104.9

貸借対照表関係財務比率

比率	算式(×100)	評価	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	本年度	(単位:%)
								芸術系 学部平均
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	↗	90.4	90.5	90.4	88.3	88.9	91.0
消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総資金}}$	↗	2.4	1.1	1.8	4.8	2.8	△ 5.2
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	↘	90.2	91.9	90.4	94.4	96.9	94.4
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}+\text{固定負債}}$	↘	86.5	88.2	86.8	91.0	93.3	89.9
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	↘	81.6	83.2	81.7	83.4	86.2	85.9
有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	↘	56.6	58.4	56.6	52.4	53.4	56.1
その他の固定資産構成比率	$\frac{\text{その他の固定資産}}{\text{総資産}}$	↗	25.0	24.8	25.1	31.0	32.8	29.9
流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	↗	18.4	16.8	18.3	16.6	13.8	14.1
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	↗	323.9	299.0	310.2	198.1	181.3	317.3
退職給与引当預金率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	↗	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	69.7
固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資金}}$	↘	3.9	3.9	3.7	3.3	3.4	4.5
流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資金}}$	↘	5.7	5.6	5.9	8.4	7.6	4.4
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	↘	9.6	9.5	9.6	11.7	11.1	9.0
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	↘	10.6	10.5	10.6	13.2	12.4	9.8

(※) [評価] ↗:高い値が良い ↘:低い値が良い  
 総資金=負債+基本金+消費収支差額 自己資金=基本金+消費収支差額